

# 令和5年度 学校評価 報告

## I 学校目標

自らライフキャリアをデザインし、地域社会に主体的に関わり貢献できる人の育成

## II 生徒育成方針

- 1 自他の大切さを認め チームで活動できる
- 2 地域の良さを知り 情報発信できる
- 3 社会の一員として 自覚を持って行動できる
- 4 時代の変化に応じて キャリアデザインできる

## III 重点目標

- 1 学ぶ楽しさを実感し、学びを深め広げながら主体的に進路選択でき進路実現できる生徒を育む。
- 2 他者を理解し自他の大切さを認め支え合いながら人権感覚を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりを推進する。
- 3 保護者や地域に校内の教育活動を適時情報発信し連携を深めながら、地域に開かれた学校づくりを推進する。

## IV 評価について

Vの視点にもとづき教育活動を実践してきました。定期的に生徒・保護者の振り返り（アンケート調査）を実施。それらの評価により教育活動について検証しました。

なお各アンケート調査の回答数は以下のとおり。

生徒の教育活動アンケート	… R4.7月：162人	R4.12月：138人
	R5.7月：126人	R5.12月：148人
坂城高校版ループリック	… R5.4月：160人	R6.2月：72人(1,2年のみ)
保護者の教育活動アンケート	… R4.7月：107人	R4.12月：94人
	R5.7月：96人	R5.12月：101人

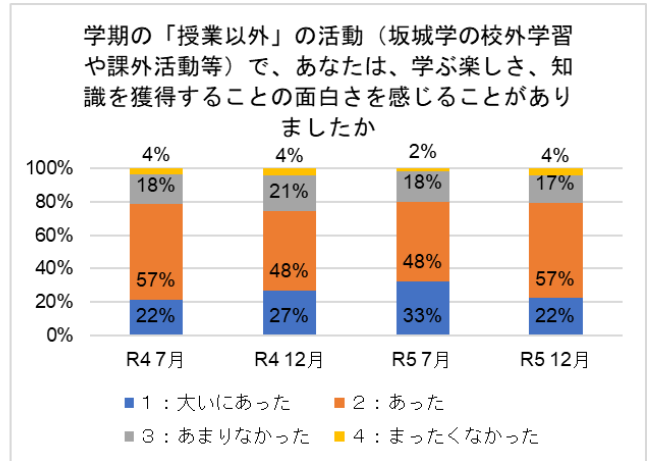
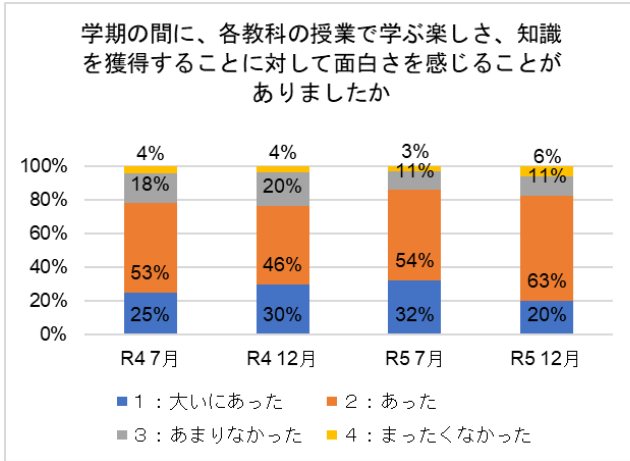
## V 評価の視点

以下の10の視点に対して、評価を行いました。

<視点1>	生徒が、学ぶことについて、その楽しさをさらに感じられるようになったか
<視点2>	生徒が、その希望する進路実現に必要な学力を身につけたか
<視点3>	生徒一人ひとり自己理解が深まり、自分の考え方や行動の判断基準（価値観）をもてるようになったか
<視点4>	生徒が、自分と他人の価値観の違いを理解し、ともに成長できる関係を築けるようになったか
<視点5>	生徒が、他者と協力して学び合ったり、作業したり、課題解決にむけて協働して活動できるようになったか
<視点6>	生徒が、自分の考えやグループでまとめたこと等を聞く相手に伝えられるようになったか
<視点7>	生徒一人ひとりが、わからないこと、うまくできないことがあったとき、自ら新たな技能や知識を身につけようとする姿勢をもてるようになったか
<視点8>	生徒一人ひとりが、自分の将来を想像し、その実現に向けて必要な行動を定め実行できるようになったか
<視点9>	生徒、保護者にとって、学校は安心して学び活動できる場所であったか
<視点10>	生徒、地域や保護者の学校への期待（需要）を共有し、教育活動を展開することができたか

<視点1>生徒が、学ぶことについて、その楽しさをさらに感じられるようになったか

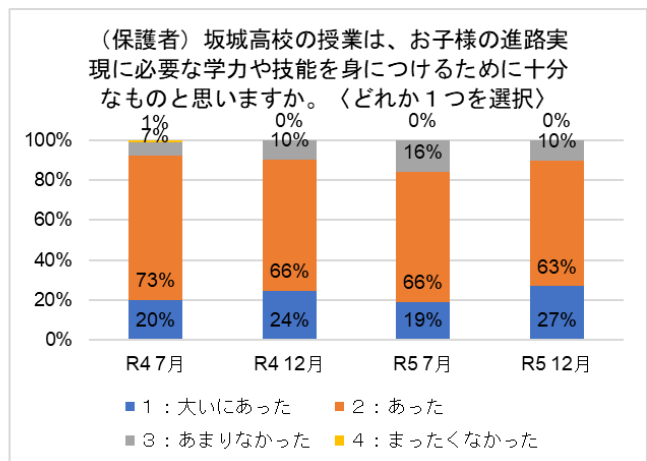
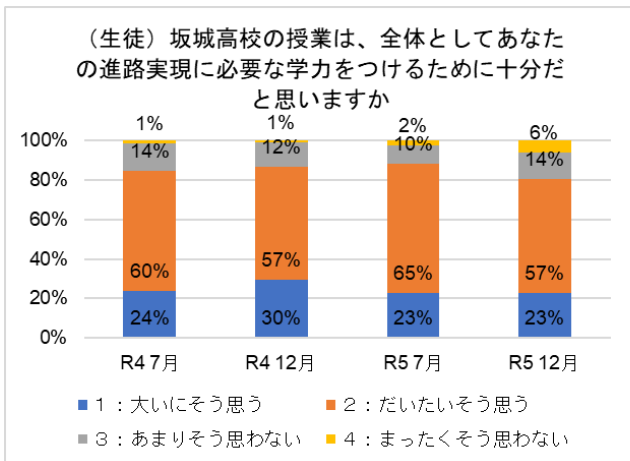
左のグラフは、教科の授業について、右のグラフは坂城学や課外活動について、学ぶ楽しさを問う質問です。この結果から、「1大いにあった」「2あった」を合計した数はどちらも昨年度からおおむね8割であり、多くの生徒が面白さを感じていることが分かりました。R5 12月（2学期）の方が7月（1学期）よりも評価がやや低くなりましたが、これは授業で扱う内容が難しくなっていたからだと考えられます。それでも昨年度よりも2学期の下がり幅が減っていることから、授業担当者の工夫が実っているものと思われまます。



<視点2>生徒が、その希望する進路実現に必要な学力を身につけたか

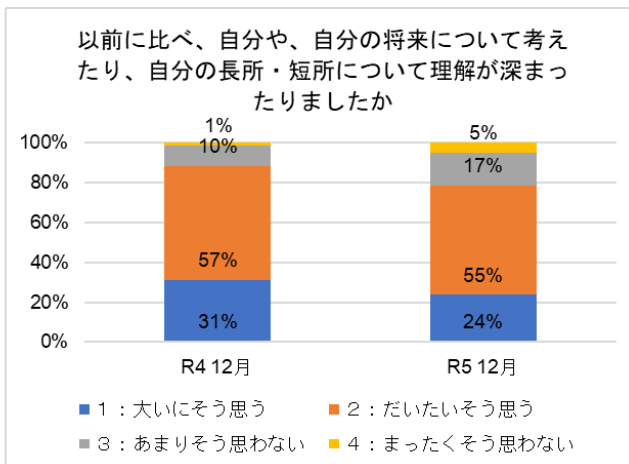
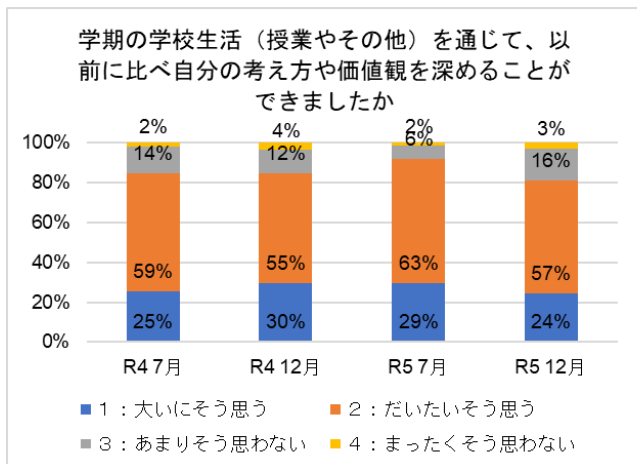
生徒へのアンケートから、こちらもR5 7月、12月ともに「1大いにあった」「2あった」を合計した数は8割を超えており、多くの生徒が「学力をつけるために十分だ」と考えていることが分かりました（グラフ左）。

また保護者へのアンケートからも、R5 7月で84%、12月では90%の保護者から十分だという好意的な回答をいただくとともに、1学期よりも2学期の方が若干高まっています（グラフ右）

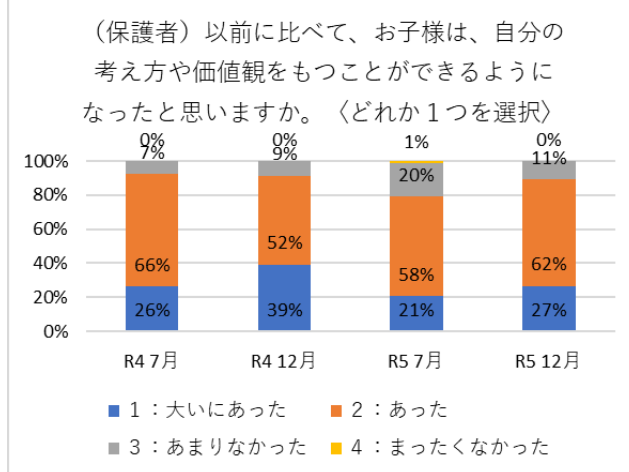


＜視点3＞生徒一人ひとり自己理解が深まり、自分の考え方や行動の判断基準（価値観）をもてるようになったか

生徒へのアンケートから、自分の考え方や価値観を深めることができたかを問う質問に対し、R5 7月では「大いにそう思う」「だいたいそう思う」と答えた生徒が91%と昨年度に比べて高い値となっているのに対し、12月では81%と減少しました（グラフ左）。12月は値としては高いものの、学習をしていくうちにわからないことが増える時期ではあります。深く考えたことにより、かえって値が下がったものと考えられます。また将来についての自己理解を問う質問では、昨年度88%に対して79%と下がっています（グラフ右）。進路に対して迷いが生じているのかと推測されます。

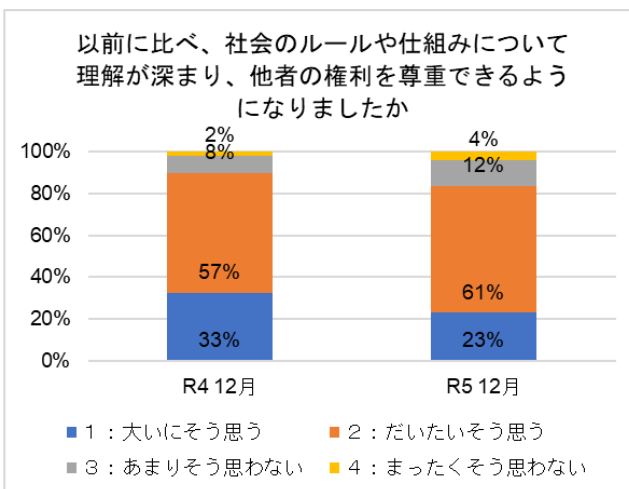
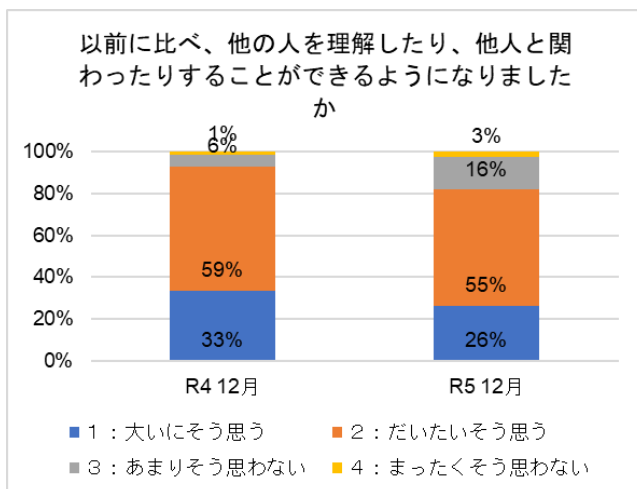


一方で保護者へのアンケートからは、自分の考え方や価値観をもつことができるようになったかについての質問に対して、今年度7月に79%だったものが89%に増加しています。保護者から見た生徒は、自分の価値観をもつことができるようになったようです。



＜視点4＞生徒が、自分と他人の価値観の違いを理解し、ともに成長できる関係を築けるようになったか

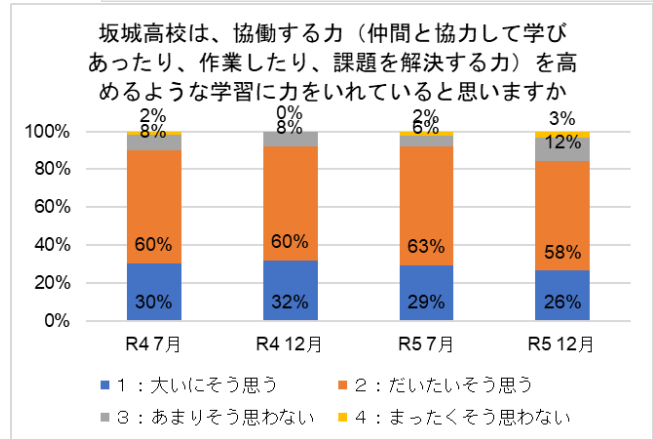
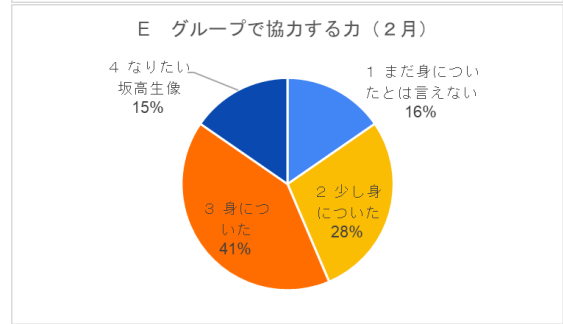
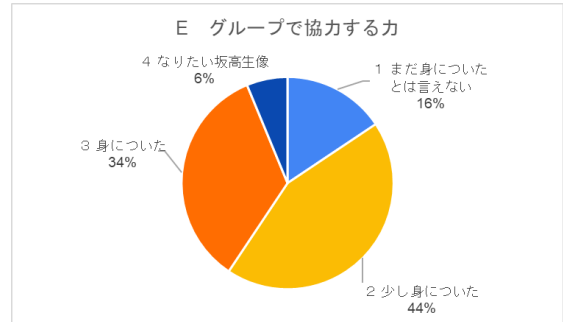
他者理解を問う生徒へのアンケート結果では、R5ではR4よりも低い結果となりました（グラフ左）。また社会のルールや仕組みについての質問に対しても、R4よりも低い結果となっています（グラフ右）。



<視点5>生徒が、他者と協力して学び合ったり、作業したり、課題解決にむけて協働して活動できるようになったか

4月に実施した「坂高版ルーブリック」より、「2少し身についた（授業内グループ活動に参加し、協力して学習できる。委員会活動や清掃活動・クラブ活動などで自分の役割を果たしている。）」「3身についた（授業内のグループ活動において積極的に自分の意見を伝え、学習を進めようとしている。委員会活動や清掃活動、クラブ活動において自ら進んで活動できている。）」と答えた生徒が大多数です（グラフ上）。また2月に行った同様の質問では、「4なりたい坂校生像（授業内のグループ活動において、中心となって全体をまとめようとしていたりしている。委員会活動や清掃活動、クラブ活動において、リーダーシップを発揮している）」「3身についた」としている生徒が4月に比べてふえており、他者と協力・協働する意欲やそれに伴う成長がうかがえます（グラフ中）。

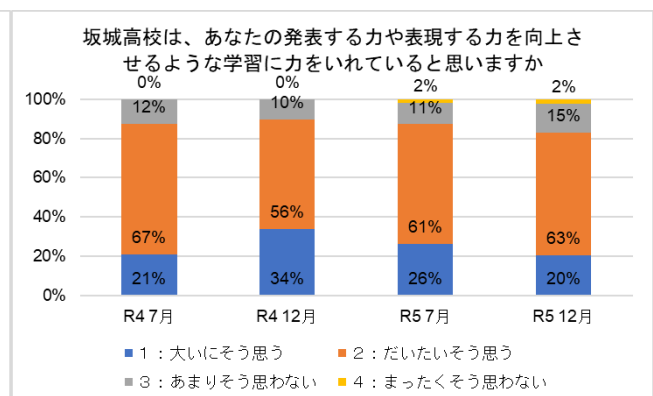
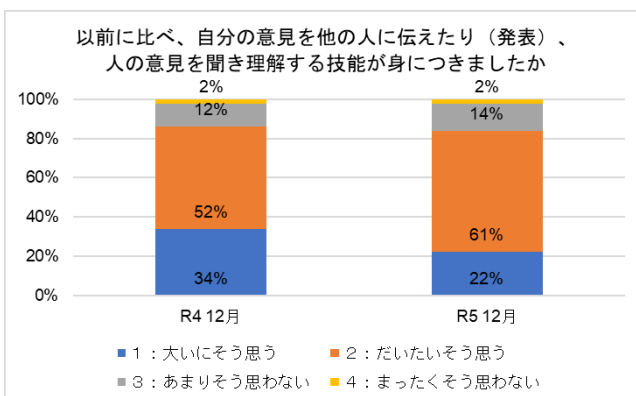
その一方、学校の取り組みについての質問は、昨年度に比べて減少傾向にあります。人間関係が学習活動にも影響をしていると推測されます。（グラフ下）



<視点6>生徒が、自分の考えやグループでまとめたこと等を聞く相手に伝えられるようになったか

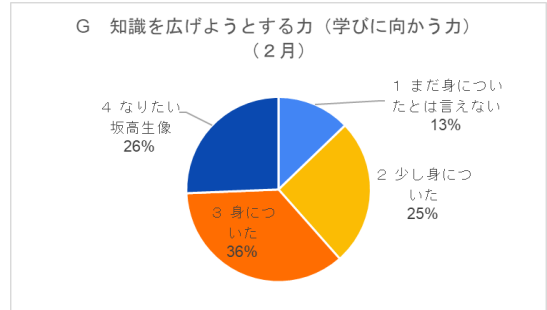
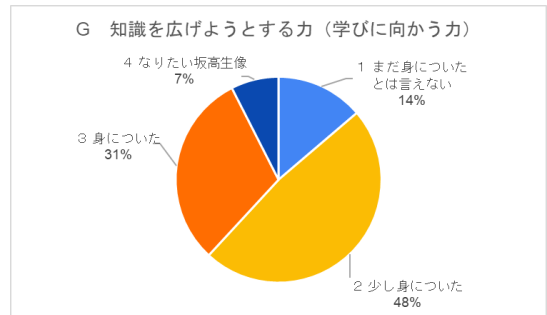
生徒へのアンケート結果より、伝える力が身についたかという質問に対して「大いにそう思う」「だいたいそう思う」と答えた生徒は8割強で昨年に引き続き高い値となっています（グラフ左）。ただし坂城高校が力を入れているかという問いに対しては、そう思うと答えた生徒はR5 12月で83%と高いものの、昨年度から比べると下がってきています（グラフ右）。

これは中学校でも一人一台パソコンが当たり前の世代になってきており、坂城高校での取り組みが中学校と差がなくなってきたことが要因として考えられます。坂城高校でもパソコンを使っの発表などを各教科で行うなど、年間を通して学習活動に取り入れています。12月のアンケート以降に、坂城学発表会（2月実施）に向けた機運が上がってきていることも結果的に低くなった要因だと考えられます。

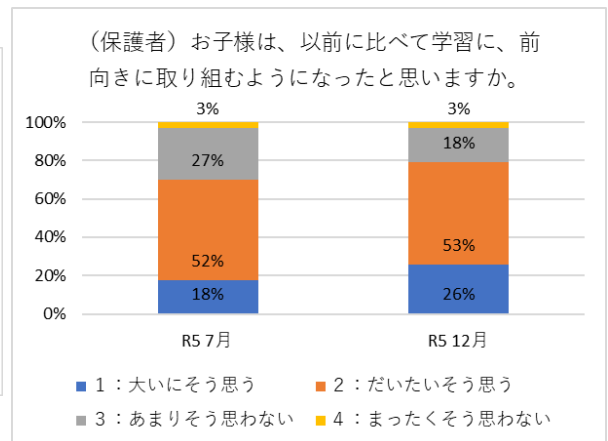
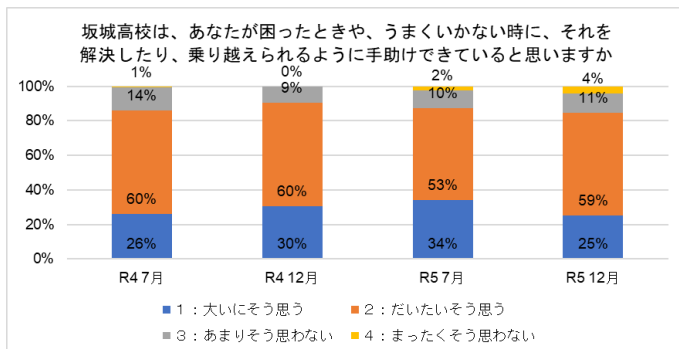


＜視点7＞生徒一人ひとりが、わからないこと、うまくできないことがあったとき、自ら新たな技能や知識を身につけようとする姿勢をもてるようになったか

4月実施のルーブリックより、「2少し身についた（知らない言葉や事柄が出てきたら、意味を尋ねたり調べたりしようとしている。坂城町や自分の地元について知ろうとしている）」「3身についた（知らない言葉や事柄が出てきたら、意味を調べ、理解することができる。坂城町や自分の地元について調べ、知識を得ている）」と答えた生徒が大多数です（グラフ上）。また2月に行った同様の質問では、「4なりたい坂校生像（知らない言葉や事柄に対し、調べて理解した知識を他者にわかるように説明できる。坂城町や自分の地元について調べて理解したことを他者に説明できる。）」「3身についた」としている生徒が4月に比べてふえており、調べる力や説明する力をつけたという意欲がうかがえ、成長している実感ももっているそうです（グラフ中）。ただ坂城高校の取り組みについての質問に対しては、8割以上の生徒が「できている」と答えている一方、「そう思わない」と答えている生徒の割合は回を追うごとに増えています（グラフ下左）。

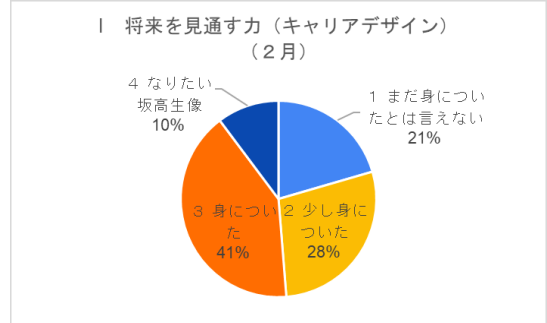
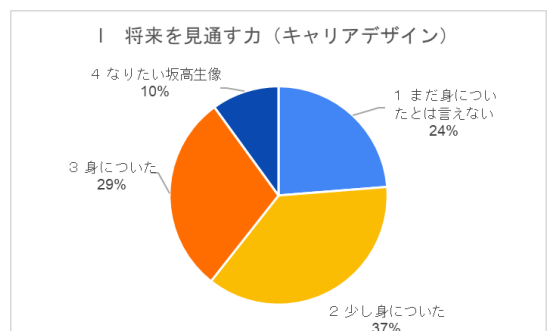


その一方、「お子様は、以前に比べて学習に、前向きに取り組むようになったと思いますか」という質問に対する保護者の回答は、7月よりも12月の方が「そう思う」と答えた割合がかなり増えています（グラフ下右）。



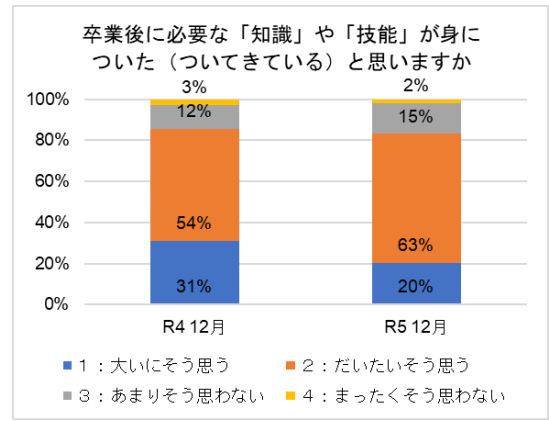
＜視点8＞生徒一人ひとりが、自分の将来を想像し、その実現に向けて必要な行動を定め実行できるようになったか

4月に実施した「坂高版ルーブリック」の結果から、「2少し身についた（自分の将来について、想像している。夢や目標がある）」37%、「3身についた（自分の将来を想像し、それに向けて自分の行動を選択しようとする）」29%、「4なりたい坂校生像（自分の将来を想像し、それに向けて必要な行動を定め、実行できる）」10%であった（グラフ上）。8割弱の生徒は夢や目標があるとし、4割の生徒がそれに向けて必要な行動を考えていることが分かります。また2月に行った同様の質問では、「3身についた」としている生徒が増え、さらに自覚的に行動を考えていることが分かります（グラフ下）。



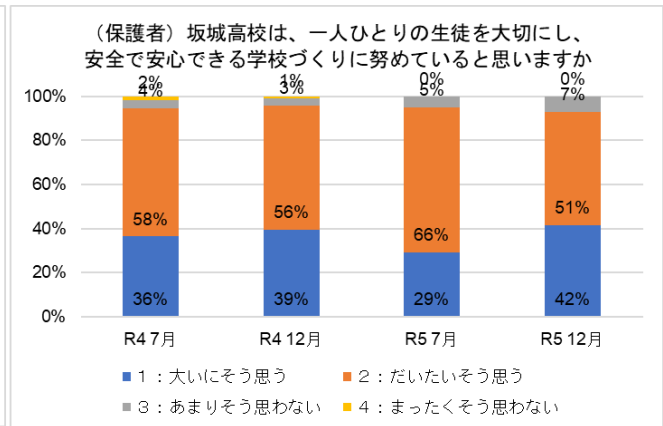
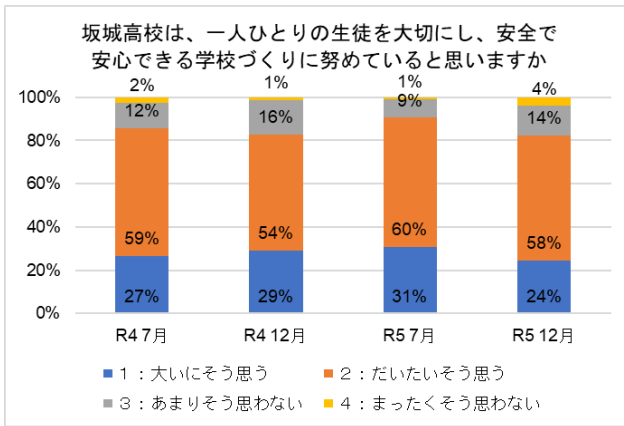
来年度も坂城学を中心により一層生徒の学びの自主性を高めていきたいと思ひます。

また結果として「知識や技能が身についたか」というアンケートに対し、8割以上の生徒が昨年を引き続き「そう思う」と回答しています（グラフ右）。



<視点9> 生徒、保護者にとって、学校は安心して学び活動できる場所であったか

生徒へのアンケート結果より、1学期（7月）で90%、2学期（12月）で82%の生徒が「大いにそう思う」「だいたいそう思う」と答えており、学校の取り組みを好意的に評価していることが分かります（グラフ左）。また保護者へのアンケートからも、好意的な答えが90%を超えています。学校の取り組みに対し、一定の評価を得ています。

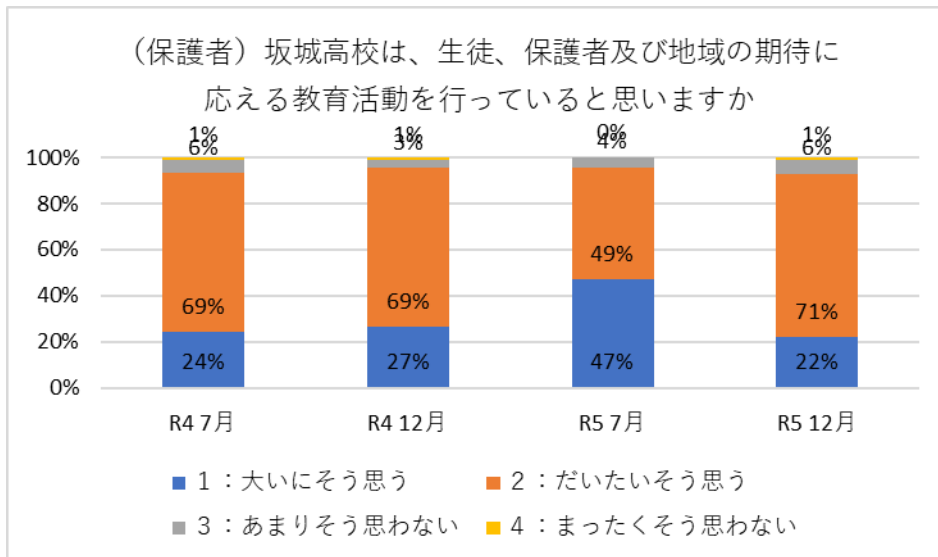
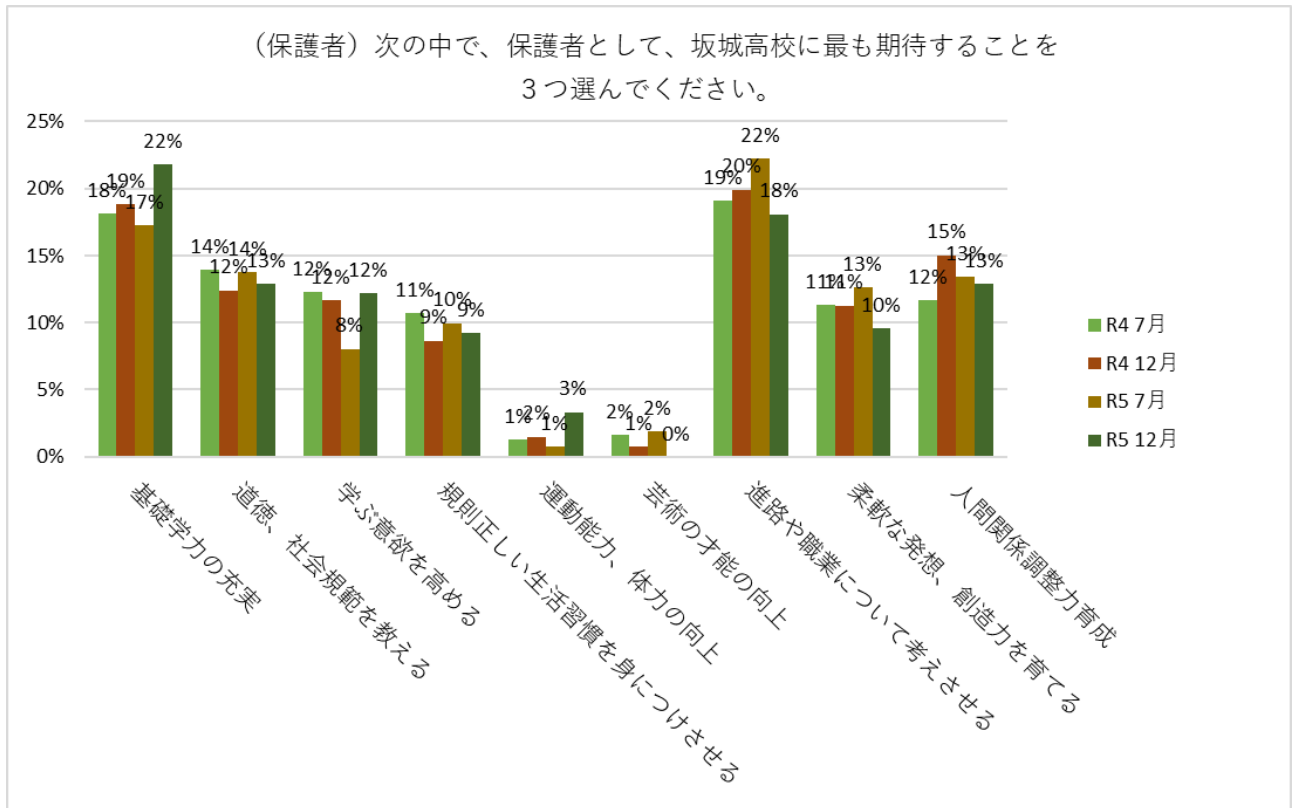


<視点10>生徒、地域や保護者の学校への期待（需要）を共有し、教育活動を展開することができたか

保護者へのアンケートからは、ここ数年

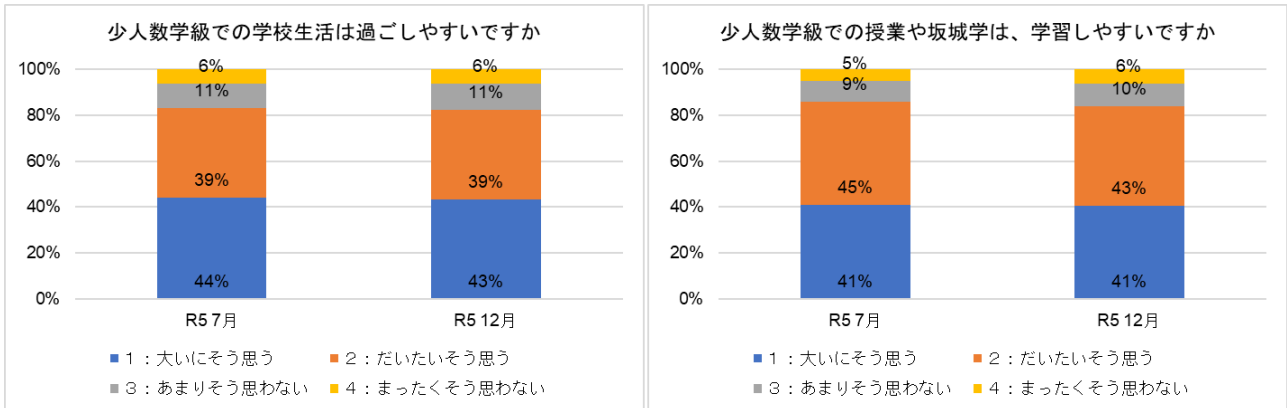
- ①進路や職業について考えさせる
- ②基礎学力の充実
- ③人間関係調整力育成 ・ 道徳、社会規範を教える

の順で坂城高等学校に期待をされています（グラフ上）。その下のグラフの通り、毎回90%以上の方が「大いにそう思う」「だいたいそう思う」と回答しており、高い評価をいただいているところですが、引き続き上記の項目については特に力を入れる必要があるものと考えます。



### <少人数学級>

坂城高校が未来の学校「少人数学級を研究する高校」として取り組んだ結果として、生徒へ「過ごしやすいか」「学習しやすいか」の2点で問いました。1学期2学期どちらも「そう思う」と答えた生徒が8割を超えており、多くの生徒にとって少人数学級がいい結果を生むものであると考えられました。



また保護者に対しても、少人数学級について尋ねたところ、1学期で96%、2学期では100%の保護者から「そう思う」との回答を得られました。保護者からすると、少人数学級による効果を期待して坂城高校を受験させ、それに見合った効果を実感しているものと思われます。

